2歳の反抗期で悩んでいた母親たちも、子どもの成長と共に思春期の子育ての悩みに移ってきた。女性の人生の課題とも直面する。子どもから手が離れて自分のやりがいをみつけたくなる。2006年より、女性のエンパワメント事業として、特技を生かして講座を展開し、作品を作って展示販売をする「できること咲かせましょうプロジェクト」を開始している。お店や教室を開く前のステップとして、団地の一室をみんなでシェアをして活用している。母親だけでなく、一人の人間として自己実現をしていく姿に、勇気をもらっている。

4．自治体職員に期待すること

事業を続けてきた過程で、自治体に変化してほしい、と強く感じたことがある。それは、サービスを提供する時の「公平性」についての考え方である。すべての人に対して平等なサービスを提供することは行政の役割だとは思うが、その平等性を担保するためには個別に対応することがより重要となるはずである。決まりをつくって誰にでも同様に対応する、という事では決してない。見かけの「公平性」にとらわれず、本当に必要としている人にサービスを届ける「真の平等性」を追求していくことが課題であると考える。そのためにも、規制の枠組みを越えていくチャレンジをし続けてほしい。

生活者の声に耳を傾け、信頼して任せていくということを、これからの自治体に大いに期待している。NPOが行政のパートナーとなり、連携して事業や活動を展開する場合は、個人情報の共有ができる仕組みも必要である。私たちNPOも信頼を獲得していく努力をし、力を合わせる姿勢を持ち続ける。

5．女性へのメッセージ

子育てをしながら女性が働くということを、私たちは活動を通して考え続けてきた。

ふらっとスペース金剛では、17人の女性が就労しており、親子ボランティアや保育サポーターとして20人の母親が活動をしている。赤ちゃん連れの活動から、社会保険加入の就労まで、それぞれの子育ての段階に応じて5種類の関わり方がある。午前勤務のみや短時間勤務、子連れ勤務など融通の利く働き方を実施しながら、仕事なんだから我慢するのは当然、という価値観を壊して「わがまま」を実現していく挑戦をしている。

サラリーマン家庭の子育てが大多数になり、親の働く場に子どもがいる風景を想像しにくくなっている。教師をしていた母親に連れられ、夏休みに学校の畑の水やりに行ったことを思い出すが、今は昔の風景だ